

他科の先生に
知って欲しい

豆知識・・・内科編④

低線量肺がんCT検診の可能性

岡山県健康づくり財団附属病院 西井研治



低線量CTを用いた肺がん検診（以下、CT検診）は重喫煙者を対象とした米国の無作為化比較試験（National Lung Screening Trial）で20%の死亡率低減効果が示されたことにより、米国ではガイドラインで推奨され、公的保険適用が認められている。オランダ中心にヨーロッパで行われていた大規模無作為化試験（NELSON STUDY）の結果も2018年9月トロントで発表され、男性26%、女性39%の死亡率減少効果が発表された。

一方、我が国ではCT検診を住民検診など対策型検診に推奨するには至っていないが、一部の住民検診、人間ドック、あるいは職域健診などですでに多数の検診が行われている。2017年の日本CT検診学会精度管理委員会の調査では年間127,963例の受診者が報告されている。当院でも年間250例実施しており、肺がんの早期発見や喫煙者の肺気腫所見(LAA)の早期指摘に役立っている。発見された慢性閉塞性肺疾患(COPD)予備群に対して禁煙指導を中心とした進行防止介入も行っている。呼吸器以外の疾患も多数発見され、甲状腺がん、肝臓がんや腎がんなどの救命につながっている。問題となるレントゲン被ばく量もCTDIvol 1.7mGy以下と、通常診療のCTに比べ7分の1程度になっている。

若年者が多い結核の集団感染事件の接触者検診にも、従来の胸部X-Pに加えて、低被ばく



のCTを積極的に活用して早期の結核病巣を発見することに役立っている。小さな発病病巣を見逃すと、危険なINH単剤治療を行うことになり、耐性結核を作ってしまう恐れがあるのでその有用性は高い。

多くの利益をもたらす低線量CT検診であるが、広く住民検診として施行するには、我が国でも死亡率減少有効性の証明が必要であり、そのような観点からAMED事業の佐川班「低線量CTによる肺がん検診の実用化を目指した無作為化比較試験研究（JECS Study）」が現在進行中である。全国で27,000人をリクルートして無作為に胸部X-PとCT検診に割り付けるもので、当院もその研究参加施設として症例登録に協力している。

研究としてのCT検診と個人検診としてのCTどちらも当院で受け付けており、個人で受診希望の場合は8,800円の費用でいつでも受けることができる。研究としてのCT検診を希望される場合は病院までお問い合わせいただきたい。

いずれにしても21世紀型肺がん検診の主役はCT検診が担うことになると思われるので、科学的データに基づく方法でその普及を進めていきたい。